

大阪府退教情報

2024年3月4日

発行第50号

発行者:大阪府退職教職員連絡協議会 代表:林誠子

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11 大阪教組気付

電話 06-6762-7999

立憲民主党を代表して前衆議院議員尾辻かな子さんが挨拶



左写真右から二人目



大阪10区総支部長
【高槻市・島本町】
投票で権利行使を！
何時選挙でも棄権無

3月1日、午後6時半から7時半まで、扇町公園で連合大阪2024春季生活闘争総決起集会が開催された。大阪退職者連合も物価高・医療費負担の増加など厳しい暮らしの状況の中、連合大阪からの要請に応え自主参加を決定。府退教・退女教も自主参加した。参加者は例年より多く8000人と発表された。大阪の実質賃金も14か月連続マイナスとなっている。賃金の伸び率も全国平均2.1%増に対して1.2%増にとどまっている。圧倒的多数の労働者が中小零細企業で働く大阪の労働組合を代表しJAM西島製作所労組賀来委員長は、「持続的な賃上げに向け価格転嫁が必要だが発注側の圧力も強く極めて厳しい状況だ。しかし、諦めることなく闘う」と決意を表明した。職場や地域で働くもの一人ひとりの生活向上への期待と力を結集しその役割をしっかりと果たしていくことを決意しあって集会を終えた。(文責 林誠子)

3.8 際女性デー—女性の人権は平和・平等でこそ 今年は大阪50周年記念集会開催

「女性差別撤廃条約」の批准から40年以上「男女雇用機会均等法」が制定されて早35年が経過しているが、ジェンダー平等に向けた歩みはまだまだ道半ば、道のりは遠い。とりわけ、政治の場を始め意思決定の場への女性参画は2030年までに30%達成には程遠く、女性労働の7割が非正規という先進国とはいいがたい状況だ。こうした状況を払拭していくための運動が今こそ求められている。

大阪では1975年の国際婦人年の年に、部落解放同盟女性部等さまざまな女性団体が「平和と平等」を掲げ「国際女性年大阪連絡会」を結成。その後、連合大阪や大阪退女教・高齢社会をよくする会大阪等も参加し、今年で50周年をむかえる。毎年夏には平和集会、3・8の国際女性デーには女性集会を開催。社会の仕組みや組織を変えていくためには、一定数の数が必要といわれる。そのためのひとつの指標が30%を超えるということだ。ひとりのつぶやきやひとりから始まる行動も、つながりや仲間が存在があるからこそ、社会を変革していくパワーとなっていく。

□国際女性年大阪連絡会 50周年記念集会へみなさんご参加を

日時 2024年3月9日(土) 13:30開会(12:45会場)

場所 ドーンセンター1F パフォーマンススペース

記念講演 大沢真知子さん(日本女子大名誉教授、内閣府男女共同参画会議専門調査会委員等歴任)

演題 「助けて」といえる社会へ～性暴力と男女不平等社会へ～

2部では、大阪退職者連合の女性バンドによる楽しい演奏もあります。

連絡会が50年続けてこられた背景には、様々な分野での女性たちのつながりと連帯が大きな礎となっている。「ジェンダー平等・平和な社会」未来への展望を持ち、希望を共有しながらとりくみ続けている。

大阪府退職教職員の会も2年前に役員に30%を超える女性が参画したことでの変化は大きい。役員会や代表者会での論議を通して、決定に至るまでの経過や活動の見える化・共有化が進んできた。より民主的で多様性に富んだ組織づくりに向けた歩みを今後も大切にしていきたい。【文責：吉田 勢子】

わが町の市議会議員、充実、奮闘の3期目 堺 ふちがみ猛志さん

ふちがみ猛志さんは、日教組堺教職員組合の推薦議員候補として2015年春の市議選に出馬され、退職者が選挙戦の一翼を担い初当選。2019年からは日教連議員となり、2023年は堺区でトップ当選され、現在3期目で大活躍されている。「『通ったらそれで終り』という関係ではいけない」との思いから、初当選以降「堺市政と教育を考える集い」を堺退職者会・堺退女教・日教組堺の三者で年1～2回開催し信頼関係を築いてきた。

〈「2024 堺市政と教育を考える集い」を2月23日に開催〉

組合からの活動報告の後、ふちがみさんが1時間の市政報告を受けた。お話はクイズから始まった。「堺市行政が言うおむつ等の『等』は何を意味するか ①おしりふき②さらし③脱脂綿のどれでしょう?」参加者の多くは①と考えたが正解は②と③。現在、堺市の障害者児の日常生活用具の給付事業では、おむつに加え②③は「等」の範囲内と解釈して給付対象だが、①は対象外。対象としている自治体もあるが、以前から決まっていた堺市のルール・解釈が実態にあっていない。ふちがみさんは議会でこの問題を提起し、制度改革を目指している。私たちの生活が議会と深く結びついている事を再認識させられた。

その後「この1年の成果」として「・やりすぎの授業時数問題 ・医療的ケア児のガイドライン策定 ・使い勝手の悪い教員パソコン ・フリースクールとの協働 ・給食調理場のエアコン設置 ・三国丘小の運動場を守った ・育休退園の完全廃止」を丁寧に説明され、ふちがみ議員の議会での奮闘ぶりがよくわかった。「3期目の目標」として「・教員の多忙化解消 ・学校への専門職の配置強化 ・教育予算の増加・不登校問題の改善・子どもの権利条例制定・社会的養護の充実」と話された。質疑では、「議会内でのハラスメントは?」「学校群は今後どうなるのか?」「子どもの権利条例実現のためにどうすればよい?」等が出された。意見交換では、「授業時数の多さと

不登校増加がリンクしているのではないか」「テストを減らし楽しい学校が必要」「子どもにも教員にもゆとりを」「来年度予算案についての疑問」等、現在の教育への危機感と子どもの意見が反映できる学校の有り様など、熱気あふれる意見が次々出された。(文責：三田恭子)



2月23日 堺市政と教育を考える会

